涙こぼしても　汗にまみれた笑顔の中じゃ  
誰も気付いてはくれない  
だから　あなたの涙を僕は知らない  
絶やす事無く　僕の心に灯されていた  
優しい明かりは　あなたがくれた理由なき愛の灯(あかし)  
  
柔らかな日だまりが包む背中に　ポツリ　話しかけながら  
いつかこんな日が来る事も  
きっと　きっと　きっと　わかってたはずなのに  
消えそうに　咲きそうな　蕾が今年も僕を待ってる  
掌じゃ　掴めない　風に踊る花びら  
立ち止まる肩にヒラリ  
上手に乗せて　笑って見せた　あなたを思い出す　一人

ビルの谷間に　理もれた夢も　いつか芽吹いて  
花を咲かすだろう　信じた夢は　咲く場所を選ばない  
僕等　この街に落とされた影法師　みんな　光を探して  
重なり合う時の流れも  
きっと　きっと　きっと　追い越せる日が来るさ  
風のない線路道　五月の美空は　青く寂しく  
動かない　さぎれ雲　いつまでも浮かべてた  
どこにも　もう戻れない  
僕のようだと　ささやく風に　キラリ舞い落ちてく　涙  
散り際に　もう一度　開く花びらは　あなたのように  
聴こえない　頑張れを　握った両手に　何度もくれた  
消えそうに　咲きそうな　蕾が　今年も僕を待ってる  
今もまだ　掴めない　あなたと描いた夢  
立ち止まる　僕のそばで  
優しく開く　笑顔のように　蕾を探してる　空に